

ひらやま その六

※ 文集冊子「ひらやま」の継続版として随時、児童の作品を掲載します。特に四月以降に学校で書いた作文や詩などで、表彰された作品や新聞等に掲載された作品などを紹介します。今回は、「宮崎日日新聞」に掲載された作文と短歌です。

「仲間とがんばる」

六年 兵頭蒼士

今年の運動会は、体育発表会になりました。最初は全くやる気が出ませんでした。正直、「運動会がないのなら、もう…」と思ってしまったこともありました。

でも、みんなが一生けん命練習しているのを見て、ぼくも自然にがんばりたくなりました。家族や先生、友達などにアドバイスしてもらって、少しずつ上達していききました。特にぼくが苦手なのが、カエル倒立です。カエルのような姿勢で、ひじに重心をかけ、バランスをとる技です。難しいところが、前にいき過ぎると足がついてしまうことです。ぼくはバランス感覚が悪くて、すぐ頭をぶつけてしまうので、バランスボールなどで体幹を鍛えたいです。

まだまだこれからですが、仲間と共にがんばりたいです。



「ひなん所で生活」

六年 佐藤穂乃実

今日、私が住んでいる九州地方に台風がきました。私は、危険だと感じ、ひなんしました。ひなん所は、おふろもガスも冷蔵庫もありません。その中で私は、日々の生活に感謝することを二つ見つけました。

一つ目は、おふろに感謝です。その理由は、日々の生活で私は正直おふろに入るのがめんどくさかったです。でも、ひなん所に行くと、気持ちをリラックスさせる場所がありません。私は、おふろがないといやだなと思い、心の中で「おふろさん、いつもありがとう」と言いました。

二つ目は、日々の生活に感謝です。その理由は、私はふだん、ふ通にくらしています。そのふ通の生活がひなん所ではできないのです。なので私は、心の中で「日々の生活さん、いつもありがとう」と言いました。

私は日々の生活には、いろいろな感謝があると思いました。

六年 山田幸奈



楽しみはきれいな花を見つけたら

いろんな向きでしゃしんとる時